

ASEAN 大使通信 第3回 「成長の中心地」との「輝ける友情」

2023年（令和5年）2月28日



日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念シンポジウム
(2023年2月13日、ASEAN 事務局提供)

日本 ASEAN 友好協力 50 周年が、いよいよ始動しました！2月に入り、記念シンポジウムと天皇誕生日レセプションの2大行事が相次いで開催されました。ASEAN と日本の閣僚級会合も、観光・デジタル分野を皮切りに始まりました。

日本では、50周年有識者会議の報告書が首相官邸に提出され、関係府省会議が立ち上がりました。更に、ASEAN ビジネス評議会（ASEAN-BAC）やASEAN 日本商工会議所連合会（FJCCIA）、日本 ASEAN 経営者会議をはじめ、日本とASEAN 双方の官民連携を推進するための取組も動いています。

今回の大使通信では、ジャカルタをはじめ各地で動き始めた、日本 ASEAN 友好協力 50 周年の最新の取組を、日本と ASEAN 双方の皆様にご報告させていただきます。



ASEAN ビジネス評議会議長交代式典（2023年1月30日）

●ASEAN ビジネス評議会（ASEAN-BAC）との協力

[ASEAN ビジネス評議会（ASEAN-BAC）](#)は、ASEANの経済協力・統合の強化に向けて、ASEANの民間部門から政府の各分野での取組に対して提言を行うとともに、自ら参画していくための組織です。

1月30日にジャカルタで、ASEAN-BAC議長がカンボジアからインドネシアに交代する式典が開催されました。ASEAN事務総長、インドネシア商業大臣、ASEAN-BAC各国代表などハイレベルの関係者が一堂に会する大行事です。

ラジッド・インドネシア商工会議所（KADIN）会頭が新ASEAN-BAC議長に就任し、本年のテーマ「ASEANの中心性：包摂性を高めるイノベーション」と、起業家Wiki、ASEAN・QRコードなど新プロジェクトを発表しました。

この機会に、ASEAN-BACが日本の協力を得て2019年に始めた[ASEAN 起業家支援ネットワーク（ASEAN Mentorship for Entrepreneurs Network = AMEN）](#)をASEAN全加盟国に拡大する式典も行われました。私は挨拶の中で、ASEANの声に耳を傾けながら、地域の発展に貢献する取組への協力継続を表明し、大いに歓迎されました。

インドネシアのASEAN-BAC議長が提示した新プロジェクトについても、日本の協力に向けての協議が既に始まっています。



CLMV 諸国若手政府職員の ASEAN 事務局研修事業の開始式典
(2023 年 2 月 2 日)

●CLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）諸国若手政府職員の ASEAN 事務局研修

2 月 2 日、CLMV 諸国若手政府職員の ASEAN 事務局研修事業（Attachment Programme to the ASEC from CLMV）の開始式典に参加しました。

この研修事業は、CLMV 諸国の若手政府職員を ASEAN 事務局に 1 年間派遣し、参加者の行政実務能力の向上を目指すとともに、ASEAN 域内格差を是正することを目的とするものです。これまで日 ASEAN 統合基金（JAIF）等を通じて支援し、100 名以上の優秀な人材を輩出してきました。本年は 12 名が数日前に各国からジャカルタに到着し、目を輝かせて挨拶していました。

同事業を担当するエカパープ ASEAN 事務次長（社会文化共同体）は自らが 8 期生で、長年の経験に基づく心温まる挨拶をしていました。私からの挨拶では、ASEAN 事務局で幅広い人たちとのネットワークを構築し、ASEAN と自らの発展に役立ててほしいとの期待を伝えました。この開始式には CLMV 諸国以外の常駐代表も出席し、域内格差是正と人材育成に対する高い関心を実感しました。



EJIP・スルヤチプタ工業団地合同新年会での講演（2023年2月2日）

●日本の工業団地の貢献

同日の午後、ジャカルタの西郊にある[東ジャカルタ工業団地（East Jakarta Industrial Park, EJIP）](#)を視察しました。EJIPはインドネシアで最初の日系民間工業団地として1990年に設立されました。今は住友商事と現地パートナー2社が共同で運営し、入居者総数は91社で、うち製造業75社、日系企業70社とのことです。周辺には約20の工業団地が次々と建設された由で、日本企業の進出が呼び水になった歴史を現地で実感しました。

夕刻からは、EJIPと隣接する[スルヤチプタ工業団地](#)と合同新年会に招待され、約60名の企業関係者を前に、ASEANと日本についての講演を行いました（[資料](#)）。出席者からは、ミャンマー問題や東ティモールのASEAN加盟の見通しについても質問があり、政治・外交の最新動向に対する当地のビジネス関係者の関心の高さを感じました。

私たちが日々取り組んでいる幅広い分野での日本ASEAN協力は、数十年前から現在に至る、このような工業団地での日本企業と日本人の尽力と貢献、それによる信頼関係の構築が大きな基盤となっていることを改めて感じました。



日本 ASEAN 友好協力 50 周年有識者会議報告書の提出
(2023 年 2 月 3 日、大庭座長提供)

●有識者会議報告書の提出と関係府省庁会議の発足

日本でも、新年に入り取組が進んでいます。2月3日、首相官邸で日本 ASEAN 友好協力 50 周年有識者会議が開催され、木原誠二内閣官房副長官に報告書が提出されました。この報告書は、昨年5月の有識者会議設置後、6月から12月まで8回の研究会を重ねて議論した結果を取りまとめたものです。

報告書では、新たな日 ASEAN 協力パートナーシップの柱として、(1) 自由で開かれたルールに基づく公正な地域秩序の構築、(2) 経済発展・持続可能性・公正性が充足した共生社会の実現、(3) 相互理解と相互信頼の醸成、の3つを提示し、それぞれの柱について具体的な方策を提案しています。よろしければ是非ご覧ください。

これを受けて、翌週の2月7日、首相官邸で日本 ASEAN 友好協力 50 周年関係府省会議の第1回会合が開催されました。この会議は、12月を目途に東京で開催予定の日 ASEAN 特別首脳会議に向けて、関係府省の連携を強化し、効率的かつ円滑に準備を進めることを目的に設置されたものです。

第1回会合では、木原副長官から関係府省庁に対し、(1) ASEAN 側の優先分野を踏まえつつ、積極的に協力案件・アイデアを出していくこと、(2) 市民社会の草の根交流を一層促進すべく、広報、文化交流、人的交流の強化に取り組むこと、(3) 関係府省庁間の情報共有・連携を強化し、オールジャパンで臨むこと、との指示がありました。



ASEAN+3 観光大臣会合に出席した石井国土交通副大臣
(2023年2月4日、於ジョグジャカルタ)

●日 ASEAN 観光協力

2月4日には、インドネシアのジョグジャカルタで、ASEAN+3 観光大臣会合が開催され、日本から[石井浩郎国土交通副大臣](#)が出席しました。日本が参加する本年最初の ASEAN 閣僚級会合です。

この会合では、これまで ASEAN と日中韓の各国が実施してきた観光施策を共有し、今後の国際観光の発展に向けて引き続き協力していくことを確認しました。成果として、インドネシアと日本の共同議長から「ASEAN+3 観光大臣会合共同議長声明」を発出しました。

石井副大臣からは、持続可能な観光の重要性を発信するとともに、我が国の ASEAN 各国との観光協力に関する取組を紹介し、多くの ASEAN 諸国から謝意が表明されました。また、日本 ASEAN 友好協力 50 周年を記念して、「日 ASEAN 観光大臣特別対話」を本年 10 月に東京で開催することを正式に発表しました。10 月の特別対話での更なる協力進展を期待しています。



デポック第三国立高等学校（SMAN3 Depok）の日本語クラス参観
（2023年2月9日）

●日本語パートナーズ

2月9日、ジャカルタ西郊のデポック第三国立高等学校（SMAN3 Depok）を、金杉駐インドネシア大使と一緒に訪問しました。この学校には、日本語パートナーズとして福岡県出身の井上由紀さんが派遣されています。12年生（日本の高校3年生相当）の日本語クラス38名の授業を参観しました。

日本語パートナーズは、ASEAN 10 カ国を含むアジア諸国に現地の日本語教師や生徒のパートナーを派遣し、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行うとともに、現地の言語や文化を学ぶことを通じて、アジアの架け橋となる人材を育成する事業です。

日本 ASEAN 友好協力 40 周年特別首脳会議で発表された「文化の WA プロジェクト」の一環として、これまで ASEAN 諸国に 2,200 人以上の日本語パートナーズを派遣してきました。今回、日本語・日本文化教育の現場で楽しく交流する先生と生徒の皆さんとお会いして、事業の効果を実感しました。後継事業の実現に向けて、これから一層頑張りたいと思います。



日 ASEAN デジタル大臣会合
(2023 年 2 月 10 日、於フィリピン・ボラカイ島)

●日 ASEAN デジタル協力

フィリピンのボラカイ島で、2 月 10 日に日 ASEAN デジタル大臣会合が開催され、それに先立つ 2 月 8 日には日 ASEAN デジタル高級実務者会合が開催されました。いずれも日本から吉田総務審議官が出席し、ホスト国のフィリピンの閣僚等とともに共同議長を務めました。

両会合では、日 ASEAN 間の今後 1 年間の ICT 分野における協力・連携施策に関する「日 ASEAN デジタルワークプラン 2023」を提案し、承認されました。日本 ASEAN 友好協力 50 周年の節目の本年に、総務省は日 ASEAN 協力の一層の深化、具体化に向けて取り組む考えです。

特に、近年日本は、「日 ASEAN サイバーセキュリティ能力構築センター」の設置と運営を支援しています。今回の会合では、同センターが 2018 年～2022 年に 700 人以上のサイバーセキュリティ専門家研修実施という目標を達成したことを確認し、2023 年～2027 年の次期フェーズの開始を歓迎しました。



日本 ASEAN 友好協力 50 周年シンポジウムでの林外務大臣ビデオメッセージ
(2023 年 2 月 13 日)

●日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念シンポジウム

2 月 13 日、当代表部はインドネシアのシンクタンク [FPCI](#) と共催で、"Golden Friendship with the Epicentrum of Growth"をテーマとして、日本 ASEAN50 周年記念シンポジウムをハイブリッド形式で開催しました。

[林芳正外務大臣](#)・[議長国インドネシアのルトノ外務大臣](#)・[対日調整国タイのドーン副首相兼外務大臣](#)のビデオメッセージ、カオ ASEAN 事務総長の開会挨拶、ナタレガワ前インドネシア外務大臣、有馬南部アジア部長他の登壇者によるセッションのいずれも、心のこもった深い内容のものでした。

特に、[林大臣のメッセージ](#)では、インド太平洋に関する ASEAN アウトルック (AOIP) の主流化支援の新たな 3 本柱を打ち出し、NHK をはじめ広く報道されました。私からは[閉会挨拶](#)で、日 ASEAN 協力の歴史を振り返るとともに、未来に向けて次世代の交流と協力に最大限取り組みたいと表明しました。

本シンポジウムにご出席、ご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます！



日 ASEAN 特別法務大臣準備会合（2023 年 2 月 13 日、ASEAN 事務局提供）

●日 ASEAN 特別法務大臣会合に向けた準備会合

同日、東京では本年 7 月 6 日に法務省が主催する [日 ASEAN 特別法務大臣会合](#) に向けた準備会合が開催されました。

日本はこれまで 30 年近くの間、ASEAN 地域を中心に基本法令の起草・司法制度の整備、これらを運用する人材の育成などを内容とする法制度整備支援等を通じて、「法の支配」の浸透・推進に貢献するとともに、強固な信頼関係を築いてきました。

日 ASEAN 特別法務大臣会合は、「法の支配」や「基本的人権の尊重」といった普遍的価値に基づく ASEAN との連携を発信するとともに、日 ASEAN の法務・司法分野における法制度整備支援等の長年の取組を更に発展させ、ASEAN 各国との関係を次なるフェーズに引き上げる極めて重要な会合です。

法務省では同時期に東京で [G7 司法大臣会合](#) も開催予定です。この機会に日本が ASEAN と G7 の架け橋となり、国際社会における #法の支配 の推進に取り組んでいく考えです。



KADIN・JETRO・ASEAN-BAC 共催行事
「ASEAN と日本の共同創造と共同変革」(2023年2月22日)

●インドネシア商工会議所 (KADIN) との連携推進

翌週の2月22日、インドネシア商工会議所 (KADIN) ・JETRO ・ASEAN BAC 共催の日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念行事「ASEAN と日本の共同創造と共同変革」が、ジャカルタ市内のホテルでハイブリッド形式で開催されました。

昨年来、日本の官民は共同で「日 ASEAN 経済共創ビジョン」の策定に向けて作業を進め、本年1月に[中間整理](#)をとりまとめました。今回の行事は、インドネシアの経済界の参画を得て、最終とりまとめに向け議論を深めるためのものです。

私は開会式の基調講演で、日本 ASEAN 友好協力 50 周年の好機を生かして、持続可能性・イノベーション・連結性・人的資本の4つの柱からなるビジョンの素案を、ともに改善し実現していくことへの期待を表明しました。

今回、バーナーディノ KADIN 副会頭 / ASEAN-BAC 副議長をはじめ、当地の日・インドネシア双方の経営者・起業家が集まって、デジタルやグリーンの最前線の取組を共有して議論を行ったことは、大変有意義だったと思います。



天皇誕生日祝賀レセプションでの乾杯の発声（2023年2月23日）

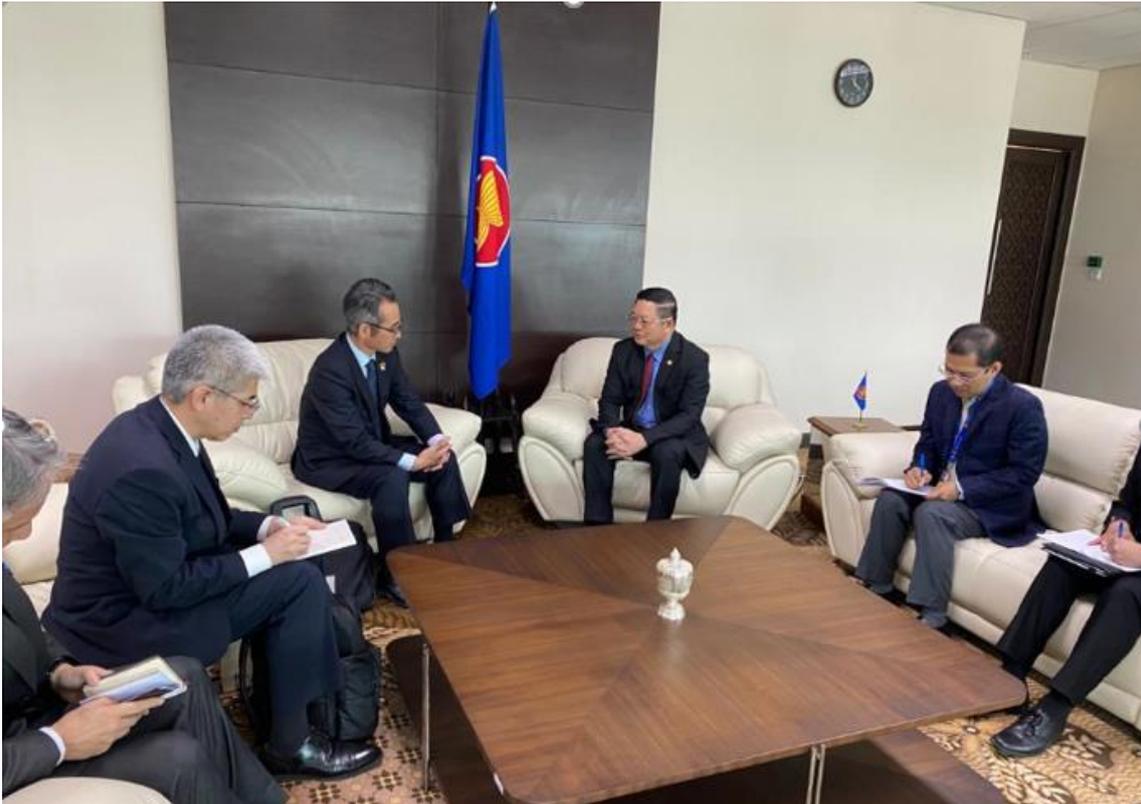
●天皇誕生日祝賀レセプション

2月23日には、在インドネシア日本国大使館とASEAN日本政府代表部の共催で、天皇誕生日祝賀レセプションを市内ホテルで開催しました。対面での開催は3年振りで、主賓のアリフィン・タスリフ・エネルギー鉱物資源大臣とカオ・キムホンASEAN事務総長をはじめ1,000人以上の出席を得ることができました。

私は乾杯の発声を担当し、今年は特に、天皇陛下の63歳の誕生日に加え、インドネシアのASEAN議長国下での日本ASEAN友好協力50周年、日本インドネシア外交関係樹立65周年を祝して盃を挙げました。

JICA、JETRO、JNTO、日ASEAN統合基金運営チーム（JMT）、ジャカルタ日本クラブ（JJC）、そして幅広い分野の日本企業のブースで日本の貢献を紹介し、お寿司や天ぷらなどの和食、日本酒や日本産のワインも、出席者の皆様に楽しんでいただくことができました。よろしければ、現場の雰囲気は[動画](#)をご覧ください。

私は外務省に入ってから世界各地で天皇誕生日祝賀レセプションに出席してきましたが、これほど大規模のものは今回が初めてです。日本とインドネシア・ASEANとの関係の深さと広がりを改めて感じました。



水野農林水産省局長の来訪（2023年2月23日）

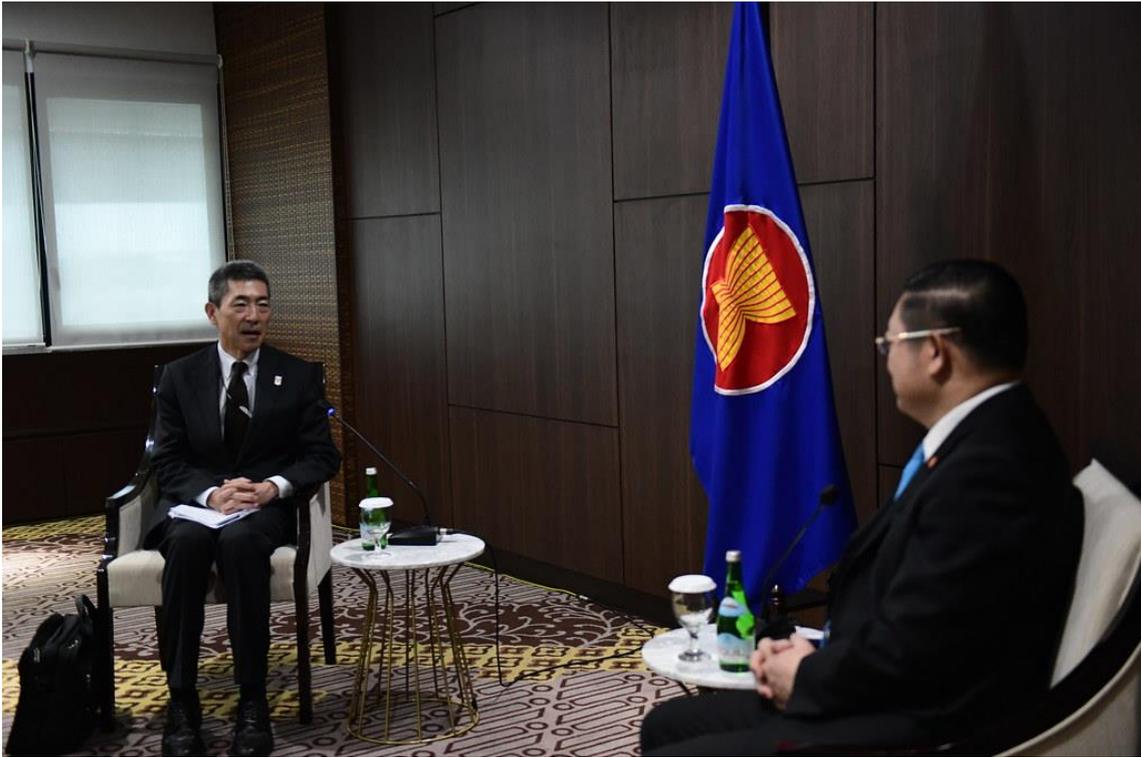
●日 ASEAN みどり協カプラン

天皇誕生日祝賀レセプションと同日に、農林水産省の水野政義輸出・国際局長がジャカルタを来訪し、『日 ASEAN みどり協カプラン』の実施に向けて、カオ・キムホン ASEAN 事務総長他と協議を行いました。

農業分野では、日本は以前から ASEAN+3 農林大臣会合に出席しています。昨年 10 月にオンラインで開催された ASEAN+3 農林大臣会合では、野村農林水産大臣が出席し、ASEAN 地域への日本の協カイニシアティブである『[日 ASEAN みどり協カプラン](#)』を打ち出して、ASEAN 各国からの賛同を得ました。

このプランは、イノベーションにより環境負荷を低減しつつ農業生産と生産性を向上することで、ASEAN 地域での食料安全保障の確保に向けて、強靱で持続可能な農業と食料システムを構築しようとするものです。具体的には、(ア) 技術の開発・実証・普及、(イ) 人材の育成、(ウ) ASEAN 地域ガイドラインの実施に向けた協カを行い、その推進に際しては官民連携のメカニズムを活用する考えです。

今回の協カを踏まえ、日 ASEAN 友好協カ 50 周年に際して、農業分野での協カ関係をさらに強化・深化する方向で準備を進める予定です。



黒田 JETRO バンコク事務所長とカオ・キムホン ASEAN 事務総長の会談
(2023 年 2 月 24 日、ASEAN 事務局提供)

●ASEAN 日本商工会議所連合会 (FJCCIA) と ASEAN の連携

翌日の 2 月 24 日には、当地出張中の黒田淳一郎 JETRO バンコク事務所長がカオ・キムホン ASEAN 事務総長と[協議](#)を行いました。

今回の協議では、本年 7 月を目途に開催予定の ASEAN 日本商工会議所 (FJCCIA) と ASEAN 事務総長の年次対話の準備について意見交換が行われました。以前から、JETRO バンコク事務所が日本側の本件調整窓口となっています。

[昨年 8 月の FJCCIA・ASEAN 事務総長年次対話](#)では、日本企業の ASEAN での事業・投資を再活性化させるべく、ASEAN 進出日系経済界からのビジネス環境の改善要望や日 ASEAN での事業協力の提案を ASEAN 事務局に行いました ([要望と提案の全文](#))。そして、日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けて、日本企業は ASEAN と連携して取組むことを約束しました。

黒田所長には、今回の当地来訪の機会に初めてお会いすることができました。本年の FJCCIA・ASEAN 事務総長年次対話が、日 ASEAN 友好協力 50 周年にふさわしい有意義なものとなるよう、緊密に連携していきたいと思っております。



経済同友会アジア PT 関係者との意見交換（2023 年 2 月 24 日～25 日）

●日本・ASEAN 経営者会議

2 月 24 日から週末の 25 日にかけて、経済同友会の（国際交流事業の一端を担う）アジア PT 関係者がジャカルタを来訪しました。同 PT が主導して昨年 12 月に開催された第 48 回日本・ASEAN 経営者会議の[結果](#)を踏まえ、日本 ASEAN 友好協力 50 周年にふさわしい次回会議の開催に向け意見交換を行うためです。

昨年 12 月の会議では、（1）生活の質の持続的向上と個人の可能性を最大限引き出す機会創出に向けて課題を解決することが、日 ASEAN の関係強化の目的であること、（2）課題に取り組む基盤は「人材」であり、各国が人材の獲得・育成に注力するとともに、多層的な人の移動と還流を促進し、学び合い、知恵、経験や処方箋を共有し合うための枠組みの整備が不可欠であることについて、認識が共有されました（[報告書](#)参照）。

今回、日本と ASEAN が協力して課題解決と人の還流を推進する具体的な方策についてブレインストーミングを行い、日 ASEAN 間の次世代交流を担うステークホルダーの連携促進が重要との点で意見が一致しました。日本・ASEAN 経営者会議が、そのためのイニシアティブを取ることを期待しています。



50周年記念シンポジウムでFPCI若手スタッフ・インターンと
(2023年2月13日)

●「成長の中心地」との「輝ける友情」を「次世代」につなぐ

この1か月を振り返ると、2月13日の日本ASEAN友好協力50周年記念シンポジウムを機に、大きな方向性の模索から分野毎の協力事業の具体化に向けて力点が移行しているように感じています。

変わらないものは、信頼と交流の重要性。新しいものは、安全保障環境の変化とデジタルやグリーンなどの諸課題への対応の必要性。その双方を視野に入れながら、日ASEANの新たな協力関係のビジョンを構想し、具体的なイニシアティブを実施に移していくことが大事です。

ASEAN議長国のインドネシアが掲げる「成長の中心地」と、日ASEAN50周年が誇る「輝ける友情」を結びつけることで、大きな価値が生まれます。その価値を定着させるためには、担い手となる「次世代」を育てていくことが不可欠です。

2月13日のシンポジウムでは、企画・広報・運営を担う若手のスタッフとインターンの活躍に強い印象を受けました。結局のところ、私たちの取組の成否は、

日本と ASEAN の双方で、「次世代」をいかに育成していくかにかかっています。このことを念頭に、12 月目途の日 ASEAN 特別首脳会議開催に向けて、幅広い分野での協力の構想を具体化していきたいと思います。

良いアイデアがありましたら、お気軽にお教えいただければ幸いです。ASEAN と日本、そして地域と世界の未来に向けて、一緒に協力を推進していきましょう！

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦

(以上)